

	検討が必要な項目	課題の内容	第1回検討会での意見等
1	病院について	①急性期医療ニーズの減少による病院形態の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の方針などから考えて、基本的に「総合」とつくような病院はできないことは確かだ、役割分担（急性期や回復期に特化した病院、その後は在宅医療）というような形の流れになってきている。</li> <li>・病院誘致の経過においても、病院の本当に何が必要なのか、将来を見据えた医療ニーズも考えていくという議論が抜け落ちていた。</li> <li>・地域の核になる、医療の核になる病院としては、慢性期、回復期、あるいは高齢者医療というものを進めていく必要がある。</li> <li>・「総合」ではなく、「中核的な」病院があるとよいのではないか。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→診療科が複数でも電子カルテで他科の状況を把握し判断し、対応してもらえる。検査などの結果も1時間程度で結果がわかる。また、状況に応じて他の診療科を紹介してもらえる。</li> </ul> </li> <li>・大きな病院に患者が集まるのは、いろいろなメリットがあるからではないか？</li> <li>・市民が「不安」と感じるのは病院が遠いことではないか。タクシーや介護（タクシー）を利用することで、交通費も負担となる。</li> <li>・総合病院は確かにあった方がいい。救命救急が必要になったとき、受け入れ病院が見つからず救急車の中で死ぬのは嫌である。実際、体調不良時に救急車を呼び、搬送先が見つかり病院に到着するまで、1時間くらい時間がかかった。             <ul style="list-style-type: none"> <li>➡ 何かあったときに、1時間待たなくてもいいような形で、誰かが診てくれたらいい。</li> <li>    普段診てくれている人とか、訪問看護師さんとかが、まず診てくれて、そこでまず不安を抑えてくれてから、しかるべきところに行かれるという役割分担</li> <li>➡ すぐ診てもらえる、遠くまで行かなくてもよい、というのは安心感につながる。そのような病院、あるいは医療センターのようなものがないのではないか。</li> </ul> </li> <li>・地域に中核病院があり、住んでいるまちの病院と連携しているシステムは非常に良いと思う。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大病院」はあった方がいいとは思いますが、それを継続することも考えなければいけない。今の逗子にそれができるだろうか。</li> <li>・病院や施設は必要であるが、個々の経営を考えなければならない。</li> <li>・近くに駆け付けられる医療機関があるのはうれしいが、適切な判断と必要に応じて別の医療機関につなぐ連携の役割をしっかりとやってくれるとよい。</li> <li>・藤沢市は住みよい街1位。人口も増えている。逗子との違いは中核的な病院が多いこと。             <ul style="list-style-type: none"> <li>➡ 小児の人口、移住者を増やすためにも、子供を増やすためにも医療は間違いなく基盤としては必要だろう。</li> </ul> </li> <li>・一つの病院で医療・病気を治すのではなく、地域全体で病気を治して地域で支える医療を行っていくというようなことが今後必要となってくるのではないか。</li> </ul>
2	救急医療について	<ul style="list-style-type: none"> <li>①困ったときにすぐ診てもらえる医療の提供体制</li> <li>②小児科の夜間診療提供体制</li> <li>③医療機関・救急の利用の仕方（医師の働き方改革、限りある医療従事者を疲弊させない仕組みづくり、オンライン診療など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が「不安」と思うのは、小児科の夜間の診療体制だと思う。需要も多いのではないか。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→小児の夜間診療体制を充実させて、オンラインや電話などをフローに組み込んで、小児の周りの大人を対象としてDXに近づけていくとよいのではないか（高齢者を対象にするより適しているのではないか）</li> <li>➡ 都市部では自宅に訪問してくれる夜間のファストドクターや、オンライン診療がある。</li> </ul> </li> <li>・市内の小児科専門が2件というのは少ないのではないか。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→子供が少ないからという現実がある。</li> </ul> </li> <li>・医療のデジタル化（医療機関と薬局の連携など）、オンライン診療などが普及するとよい。</li> </ul>

<p>3</p>	<p>在宅医療について</p>	<p>① 在宅医療の現状をもっと多くの市民に知ってもらふ必要がある</p> <p>② 高齢、独居でお金がなくても在宅で生活が続けられるか（医療だけでなく生活や福祉のサービスをどうやって届けるか）</p> <p>③ 仕組みだけでなく、本人の思いや覚悟についても考える必要がある（ACP など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療も発展していて、病院でやるような治療を自宅でもやれることが増えてきている。 →逗子市の現状として、肺のレントゲン撮影や、抗生剤の投与、痰の吸引、酸素の投与（在宅酸素療法）、人工呼吸器など、医師の訪問診療や訪問看護などで協力して在宅での医療を支えている。</li> <li>・病院だから、在宅だからという垣根はだんだんなくなってきたという感じがある。</li> <li>・ただ、ご家族の協力なしにはできず、また24時間ずっと一緒にいらっしゃるので、介護負担については考えていく必要がある課題である。             <ul style="list-style-type: none"> <li>➡ 最近の在宅利用だと、医療が限界でというよりご家族の介護負担をみながら入院がよいのか、在宅でこのまま見た方がいいのか線引きをすることが多い。</li> </ul> </li> <li>・医師と看護師は連携が取れているが、介護関係者が医師と連携がとりにくいという話を聞く。             <ul style="list-style-type: none"> <li>➡ 現在、横須賀・三浦地区の訪問看護ステーションの管理者とヘルパー事業所の責任者と集まり、顔の見える関係で情報共有のためのツールを作成しているところである。</li> </ul> </li> </ul>
<p>4</p>	<p>情報発信・周知について</p>	<p>① 医療や福祉の相談窓口や仕組みが市民に周知されていない</p> <p>② 情報が一か所に集約されているとわかりやすい</p> <p>③ このまちの医療や介護の情報を学校で教えるなど、子供たちを通じて家族に知ってもらふのも一つの方法</p> <p>④ 地域で何が足りていないかを議論して発信してみると、来てくれる人もいないか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこに相談したらよいのかなどのインフォメーションが足りないのではないかな。</li> <li>・例えば、在宅でどのような医療が可能なのかなどの情報は知らないことが多く、情報の周知は重要と思う。</li> <li>・連携体制をしっかりと組むためにも情報が足りない。</li> <li>・情報発信が足りず、市民が不安に感じることもあるのではないかな。</li> <li>→医師会はホームページを作り替えているところである。</li> </ul>

5	その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大事なものは、患者の気持ちに沿うということ。これが一番大事だと思う。</li> <li>・最終的には医師と患者の信頼関係が重要と思う。</li> <li>・家庭介護の限界もあるのではないかと。             <ul style="list-style-type: none"> <li>➡ 患者本人や家族の思い、家庭の中での様々なご苦労、そういったところをまずは聞いてくれてそれに対して寄り添ってくれるような医療、介護、リハビリがあったらよいのではないかと。</li> </ul> </li> <li>・医療（治療）だけでなく、その人のクオリティオブライフ（QOL）にも重点を置いたケアのシステムができてくるとよい。</li> <li>・自分が困ったときになかなか言いたいことや伝えたいことが難しく辛い思いをした             <ul style="list-style-type: none"> <li>➡ 患者側と医療者側の受け止めのギャップを埋める方法がないだろうか？</li> </ul> </li> <li>・介護が必要な家族を抱え、複数の診療科にかかるのはとても大変。</li> <li>・フォローアップはどこがしてくれるのか。受け皿になるところがない。</li> </ul>
---	-----	--	--

【まとめ】

- ・急性期の医療というところを、どこまで逗子市のなかで抑えていくのか
  - 病院が必要なのか、それとも病院ではないけれども、何かしら急性期の対応ができる窓口が地域にあってくればそれで大丈夫なのか
- ・どんな役割を持った医療機関、病院だったりがあったらいいのか
- ・自宅で療養したり、何かあったときにまず不安が少しでも軽減されるような何か仕組みなどが必要ではないかと。
- ・そこからさらに、ちゃんと役割分担の中に連携がうまく組み合わさって、スムーズにしかるべきところにちゃんと書かれるような、そんな仕組みがあるといい。
- ・小児の対応として、夜間・休日の対応に関しても何かしら取組が必要
- ・情報発信の仕方
- ・相談窓口
- ・認知症の問題